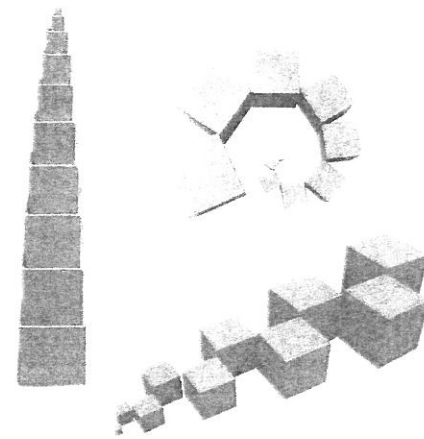


感覚教育について

人間の子どもは、他の動物と比べると未成熟の早産の状態で生まれてきます。ですから、生まれてから数年の間は、感覚器官（主に手）を使って周りの環境を吸収しながら自分自身を完成させてきます。モンテッソーリの感覚教具は、周りの雑多な環境から子どもが一つひとつの感覚をとりだして、体験できるようデザインされています。

<視覚>

ピンクタワー



☆大きさの差だけに子どもの注意が集中するように作られています。

共通する点 → ・木製で桃色である。
・全ての形が立方体である。

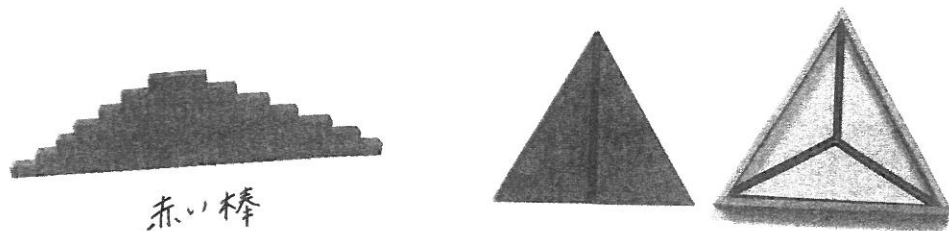
違う点 → ・一辺が 10 センチの立方体から 1 センチずつ辺が短くなり、10 個目は 1 センチの立方体になること。

☆この 10 個の立方体を大きい順に何度も積み重ねて塔を築くことを通して、子どもに大きさの違いを視覚を通して識別させるのです。

いろいろなデザインを考えて並べます。

(視覚)

- 茶色の階段 → 太さ
- 色付き円柱 → 大きさ、太さ、高さの相互関係
- 色板 → 色
- 幾何図形の引き出し → 色々な形
- はめこみ円柱 → 量(かさ)の識別
- 構成三角形 → 形の構成

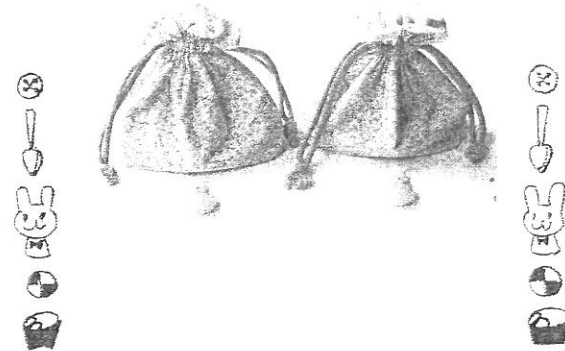


赤い棒

構成三角形

<触覚>

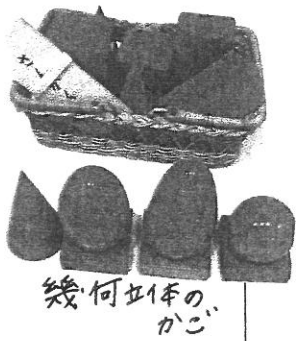
ひみつ袋



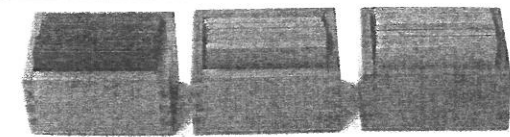
☆1 つの袋の中に見なくても触って違いが分かる品物を入れて袋から出して分類していきます。
☆まず先に出す人を決め、その人が袋から出したものと同じものを袋の中を見ないで手探りで出して対に並べています。
☆この活動のねらいは、触覚の中でも触って立体を把握する力を育てることです。

※他に 4 種類あり、全部で 5 種類の袋があります。どれも指先で触って物体を認識する遊びです。

- (触覚)
- 触覚板 → 触覚
- 幾何立体のかご → 立体認識
- 重量板 → 重量



幾何立体のかご



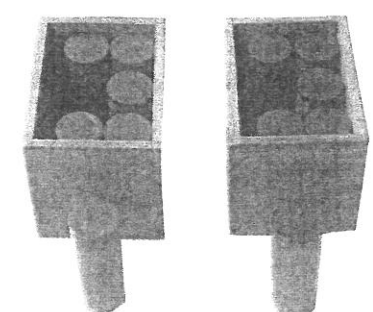
重量板



触覚板

<聴覚>

雑音筒



☆赤と青の箱があり、その中には、音の強弱の違う 6 つの筒が入っています。
☆まず、1 つの箱の 6 つの音をよく聴いてからもう 1 つの箱の中から同じ音を探していきます。
☆この活動のねらいは、音の強弱を弁別していくことです。

☆これらの教具を使って、子どもは環境の中のあらゆる体験を整理し、分類し、体系づけるのです。それは、子どもの知性に的確に働きかけることです。こうした子どもの活動は、その次の子どものさらに高度な知的生活の基盤を作ることとなります。